

アスレティック
トレーナー養成科

土日部

2022 入学

授業概要

授業概要

授業概要

科目名	スポーツ社会学	必修 選択の別	選択	開講 区分	前期	担当 教員	土黒 秀則			
サブ科目名		学年	2年	授業 形態	演習	総単位数	3 単位	総時間数	45 時間	
学科・専攻	アスレティックトレーナー養成科土日部									
【授業を通じての到達目標】										
<ul style="list-style-type: none"> 現代社会におけるスポーツの価値について理解し、伝えられるようになる。 様々なスポーツ問題や課題に対し、自分なりの意見や考え方を持つことができる。 										
【学習内容】（実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する）										
<p>実業団バスケットボールチームや国立スポーツ科学センターでオリンピックメダリストに対してのトレーニングおよびコンディショニング指導を行ってきた教員が授業を担当する。</p> <p>スポーツの概念を理解し、スポーツの文化的特性とその内容について知ることができる内容とする。</p>										
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】					
『Reference Book』公益財団法人 日本スポーツ協会 『未来を拓くスポーツ社会学』（株）みらい					様々なスポーツニュースに目を向け、自分なりに考える。					
コマ	授業計画	コマ	授業計画							
1	【授業単元】 スポーツの意義と価値 1. スポーツの意義と価値とは	11,12	【授業単元】 スポーツの歴史と発展							
	【到達目標】 スポーツとは何かを理解する。		【到達目標】 スポーツの変遷を知り、現在のスポーツを考える。							
2	【授業単元】 スポーツの意義と価値 2. 社会の中におけるスポーツの価値	13,14	【授業単元】 スポーツのインテグリティ 1. スポーツにおけるインテグリティの確立							
	【到達目標】 社会の中におけるスポーツの位置づけを理解する。		【到達目標】 スポーツのインテグリティとは何かを理解する。							
3	【授業単元】 スポーツの意義と価値 3. 文化としてのスポーツ	15,16	【授業単元】 スポーツのインテグリティ 2. アンチ・ドーピング活動							
	【到達目標】 日本や他国のスポーツ文化を知る。		【到達目標】 国内外のアンチ・ドーピング活動について知る。							
4	【授業単元】 スポーツの意義と価値 4. スポーツの文化的特性	17,18	【授業単元】 スポーツのインテグリティ 3. アンチ・ドーピングのルール							
	【到達目標】 スポーツ特有と文化的特性とその構成要素を理解する。		【到達目標】 スポーツ・ドーピングの歴史と現代の問題点を理解する。							
5	【授業単元】 スポーツの意義と価値5. 「スポーツ宣言日本」におけるスポーツの意義と価値	19,20	【授業単元】 スポーツマンシップとフェアプレイ							
	【到達目標】 「スポーツ宣言日本」の内容とその価値を知る。		【到達目標】 スポーツマンシップとフェアプレイの概念を理解する。							
6	【授業単元】 スポーツの意義と価値6. オリンピズムにおけるスポーツの意義と価値の捉え方	21,22	【授業単元】 障がい者とスポーツ							
	【到達目標】 オリンピズムの歴史的背景を知る。		【到達目標】 障がい者スポーツ（パラスポーツ）について知る							
7,8	【授業単元】 現代社会とスポーツ	23	【授業単元】 まとめ、試験							
	【到達目標】 現代社会の中で起きているスポーツの影響力とその功罪を考えることができ		【到達目標】 これまでの授業内容のまとめ、試験							
9,10	【授業単元】 スポーツの产业化と発展		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価（平素の学習状況・出席状況など）を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。 試験は筆記試験で行う。							
	【到達目標】 スポーツ产业化（主にプロスポーツ）について理解する。									
【履修に当たっての心構え・留意点】										
スポーツに興味・関心を持っていること。										

授業概要

授業概要

【授業を通じての到達目標】

トレーニングの理論や原則などをAT教本「予防とコンディショニング」を使用してオンラインにて講義する。将来、トレーナーとして現場での指導に繋がるように知識をしっかりと習得し、理解できる。

【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)

実業団バスケットボールチームや国立スポーツ科学センターでオリンピックメダリストに対してのトレーニングおよびコンディショニング指導を行ってきた教員がトレーナーの役割・業務について現場に直結した内容を提供する。トレーナーの仕事は一言で言うと「怪我をさせないこと」。体および健康に関わる仕事なので正しい理論に基づく現場指導を実施できるように真摯に受講してほしい。

【使用教科書・教材・参考図書】 ・AT教本「予防とコンディショニング」 ・オリジナル学習プリントを配布		【授業時間外における学習】 授業で学んだことを是非、授業時間外の指導に役立てて欲しい。
コマ 16	授業計画 【授業単元】 体力のトレーニング⑤<トレーニングの種類②> 【到達目標】 レジスタンストレーニング② ・上肢トレーニングを習得する。	コマ 【授業単元】 【到達目標】
17	【授業単元】 体力のトレーニング⑤<トレーニングの種類③> 【到達目標】 バランストレーニング① ・体幹トレーニングを習得する。	【授業単元】 【到達目標】
18	【授業単元】 体力のトレーニング⑤<トレーニングの種類④> 【到達目標】 バランストレーニング② ・呼吸法及びスタビリティトレーニングを習得する。	【授業単元】 【到達目標】
19	【授業単元】 体力のトレーニング⑤<トレーニングの種類⑤> 【到達目標】 ストレッチングを習得する。	【授業単元】 【到達目標】
20	【授業単元】 心のトレーニング 【到達目標】 1. 行動としてのスポーツ、2. スポーツにおける動機づけ、その他について修得する。	【授業単元】 【到達目標】
21	【授業単元】 トレーニング論で学んでことに対するグループワーク① 【到達目標】 テーマ<競技種目>を決めてトレーニング論に基づいてプログラムを作成し、発表を行う。	【授業単元】 【到達目標】
22	【授業単元】 トレーニング論で学んでことに対するグループワーク② 【到達目標】 テーマ<競技種目>を決めてトレーニング論に基づいてプログラムを作成し、発表を行う。	【授業単元】 【到達目標】
23	【授業単元】 トレーニング論で学んでことに対するグループワーク③ 【到達目標】 テーマ<競技種目>を決めてトレーニング論に基づいてプログラムを作成し、発表を行う。	【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価（平素の学習状況・出席状況など）を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。 試験は筆記試験で行う。
【履修に当たっての心構え・留意点】 グッドコーチ像として挙げられている「成長の仕方を自ら探し、自分自身の成長に主体的に取り組んで行く。」心構えで授業に取り組んでもらいたい。		

授業概要

講義一覧表

科目名	健康管理とスポーツ医学	必修選択の別	必修選択	開講区分	前期	担当教員	尾垣 孝博 石田 浩之										
サブ科目名		学年	2年	授業形態	演習	総単位数	3 単位	総時間数	45 時間								
学科・専攻	アスレティックトレーナー養成科土日部																
【授業を通じての到達目標】																	
コンディショニングに影響を与える内科的疾患を中心に専門的な知識、技術を習得する。 内科的疾患に対して、適切な対処ができる。 アスリート特有の病的現象を理解できる。																	
【学習内容】（実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する）																	
スポーツドクター（内科）として、代表チームで、コンディショニング管理、怪我の予防や、トレーニング方法、競技中の応急処置や怪我後のリハビリテーションを行ってきた教員（石田）、サッカーリーグのトップチームで経験を積み、サッカー日本代表のトレーナー経験も豊富な教員（尾垣）が担当する。 現場での経験値や具体的な取り組みを踏まえながら、コンディションを崩す原因にもなる内科的疾患について講義を実施する。 アスレティックトレーナーのやりがいや重要性を見つけ、専門職として必要なことはなにかを考えながら受講してほしい。																	
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】												
アスレティックトレーナー教本④					授業後に復習を行い、より確実に身につけることが望ましい。 コンディショニングに関わる、情報収集を行うことが望ましい。												
コマ	授業計画	コマ	授業計画														
1	【授業単元】 アスリートに見られる内臓器官などの疾患 ① 【到達目標】 循環器疾患・呼吸器疾患について、その概要を説明できる。 アスリートに起こりやすい疾患を理解できる。	9	【授業単元】 アスリートにみられる病的現象など ② 【到達目標】 オーバートレーニング症候群、突然死、過換気症候群について、その概要を説明できる。 アスリートに起こりやすい疾患を理解できる。														
2	【授業単元】 アスリートに見られる内臓器官などの疾患② 【到達目標】 循環器疾患・呼吸器疾患について、その概要を説明できる。 アスリートに起こりやすい疾患を理解できる。	10	【授業単元】 ドーピングコントロール① 【到達目標】 ドーピングコントロールについて、その概要を説明できる。														
3	【授業単元】 アスリートに見られる内臓器官などの疾患 ③ 【到達目標】 腎・泌尿器・代謝性疾患について、その概要を説明できる。 アスリートに起こりやすい疾患を理解できる。	11	【授業単元】 ドーピングコントロール② 【到達目標】 ドーピングコントロールについて、その概要を説明できる。														
4	【授業単元】 アスリートに見られる内臓器官などの疾患 ④ 【到達目標】 腎・泌尿器・代謝性疾患について、その概要を説明できる。 アスリートに起こりやすい疾患を理解できる。	12	【授業単元】 特殊環境のスポーツ医学 ① 【到達目標】 高所および低酸素環境下について、その概要を説明できる。														
5	【授業単元】 感染症に対する対応策 ① 【到達目標】 皮膚疾患、呼吸器感染症について、その概要を説明できる。 アスリートに起こりやすい疾患を理解できる。	13	【授業単元】 特殊環境のスポーツ医学 ② 【到達目標】 暑熱環境、低温環境について、その概要を説明できる。 暑熱に対する対策方法を習得する。														
6	【授業単元】 感染症に対する対応策 ② 【到達目標】 血液感染症、皮膚感染症、ウイルス性結膜炎、遠征時に注意する感染症、競技別ルールにみられる感染症対策について、その概要を説明できる。	14	【授業単元】 特殊環境のスポーツ医学 ③ 【到達目標】 時差、海外遠征時の諸問題について、その概要を説明できる。 時差に対する対策方法を習得する。														
7	【授業単元】 感染症に対する対応策 ③ 【到達目標】 血液感染症、皮膚感染症、ウイルス性結膜炎、遠征時に注意する感染症、競技別ルールにみられる感染症対策について、その概要を説明できる。	15	【授業単元】 特殊環境のスポーツ医学 ③ 【到達目標】 時差、海外遠征時の諸問題について、その概要を説明できる。 時差に対する対策方法を習得する。														
8	【授業単元】 アスリートにみられる病的現象など ① 【到達目標】 オーバートレーニング症候群、突然死、過換気症候群について、その概要を説明できる。 アスリートに起こりやすい疾患を理解できる。	【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価（平素の学習状況・出席状況など）を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。 試験は筆記試験で行う。															
【履修に当たっての心構え・留意点】																	
特になし																	

授業概要

科目名	健康管理とスポーツ医学	必修選択の別	選択	開講区分	前期	担当教員	尾垣 孝博 石田 浩之							
サブ科目名		学年	2年	授業形態	演習	総単位数	3 単位	総時間数	45 時間					
学科・専攻	アスレティックトレーナー養成科土日部													
【授業を通じての到達目標】														
コンディショニングに影響を与える内科的疾患を中心に専門的な知識、技術を習得する。 内科的疾患に対して、適切な対処ができる。 アスリート特有の病的現象を理解できる。														
【学習内容】（実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する）														
スポーツドクター（内科）として、代表チームで、コンディショニング管理、怪我の予防や、トレーニング方法、競技中の応急処置や怪我後のリハビリテーションを行ってきた教員（石田）、サッカーJリーグのトップチームで経験を積み、サッカー日本代表のトレーナー経験も豊富な教員（尾垣）が担当する。 現場での経験値や具体的な取り組みを踏まえながら、コンディションを崩す原因にもなる内科的疾患について講義を実施する。 アスレティックトレーナーのやりがいや重要性を見つけ、専門職として必要なことはなにかを考えながら受講してほしい。														
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】									
アスレティックトレーナー教本④					授業後に復習を行い、より確実に身につけることが望ましい。 コンディショニングに関わる、情報収集を行うことが望ましい。									
コマ	授業計画	コマ	授業計画											
16	【授業単元】 中間試験	【授業単元】 【到達目標】 分からぬ問題の洗い出しをし、課題を抽出する。 抽出された課題の何が分からなかったのかを特定する。	【授業単元】 【到達目標】											
17	【授業単元】 中間試験終了後の解答解説	【授業単元】 【到達目標】 分からぬ問題の洗い出しをし、課題を抽出する。 抽出された課題の何が分からなかったのかを特定する。	【授業単元】 【到達目標】											
18	【授業単元】 年齢・性別による特徴 ①	【授業単元】 【到達目標】 女性、成長期、高齢者のスポーツについて、その概要を説明できる。	【授業単元】 【到達目標】											
19	【授業単元】 内科的メディカルチェック ①	【授業単元】 【到達目標】 内科的メディカルチェックについて、その概要を説明できる。 突然死との関わり合いを説明できる。 アスリートに起こりやすい疾患を理解できる。	【授業単元】 【到達目標】											
20	【授業単元】 内科的メディカルチェック ①	【授業単元】 【到達目標】 内科的メディカルチェックについて、その概要を説明できる。 突然死との関わり合いを説明できる。 アスリートに起こりやすい疾患を理解できる。	【授業単元】 【到達目標】											
21	【授業単元】 内科的メディカルチェック ②	【授業単元】 【到達目標】 内科的メディカルチェックについて、その概要を説明できる。 突然死との関わり合いを説明できる。 アスリートに起こりやすい疾患を理解できる。	【授業単元】 【到達目標】											
22	【授業単元】 内科的メディカルチェック ②	【授業単元】 【到達目標】 内科的メディカルチェックについて、その概要を説明できる。 突然死との関わり合いを説明できる。 アスリートに起こりやすい疾患を理解できる。	【授業単元】 【到達目標】											
23	【授業単元】 定期試験、終了後の解答解説	【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価（平素の学習状況・出席状況など）を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。 試験は筆記試験で行う。	【授業単元】 【到達目標】											
【履修に当たっての心構え・留意点】														
特になし														

授業概要

科目名	アスレティックリハビリテーションⅠ	必修 選択の別	選択	開講 区分	前期	担当 教員	荒谷 幸次							
サブ科目名		学年	2年	授業 形態	演習	総単位数	4 単位	総時間数	60 時間					
学科・専攻	アスレティックトレーナー養成科土日部													
【授業を通じての到達目標】														
<ul style="list-style-type: none"> 運動療法、物理療法などのアスレティックリハビリテーションに必要な基礎知識を身につける。 スポーツ外傷・障害の病態や受傷機転を説明できる。 スポーツ外傷・障害の治療過程に応じたアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。 														
【学習内容】（実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する）														
医療機関での理学療法士としてリハビリテーション経験があり、国立スポーツ科学センターのケアスタッフ、日本パラスポーツ協会ナショナルチームのトレーナー活動経験がある教員が担当する。														
運動器の機能解剖やスポーツ外傷・障害の知識を復習しながら、運動療法、物理療法などの基礎知識を学び、スポーツ外傷・障害別のアスレティックリハビリテーションについて、座学と実技を交えて行う。														
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】									
<ul style="list-style-type: none"> 公認アスレティックトレーナー専門科目教本 7 アスレティックリハビリテーション スポーツ外傷・障害の理学診断 理学療法ガイド（文光堂） 適切な判断を導くための整形外科徒手検査法（メディカルビュー） 					授業時間外の予習等について、必要な場合は、その都度授業で案内します。									
コマ	授業計画	コマ	授業計画											
1	【授業單元】 ガイダンス・アスレティックリハビリテーションの考え方 【到達目標】 アスレティックリハビリテーションの定義、概要、考え方、リスク管理について理解する。	9	【授業單元】 腰部疾患へのアスレティックリハビリテーション 【到達目標】 腰部疾患の病態について説明できる。 腰部疾患へのアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。											
2	【授業單元】 運動療法概論・筋力増強・関節可動域エクササイズ 【到達目標】 運動療法の概要、各種エクササイズの目的を理解する。 各種エクササイズが実践できる。	10	【授業單元】 肩関節前方脱臼へのアスレティックリハビリテーション 【到達目標】 肩関節前方脱臼の病態について説明できる。 肩関節前方脱臼へのアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。											
3	【授業單元】 身体組成管理、再発予防、外傷予防のためのエクササイズ 【到達目標】 神経筋協調性・全身持久力エクササイズの目的を理解する。各種エクササイズ	11	【授業單元】 投球障害肩へのアスレティックリハビリテーション 【到達目標】 投球障害肩の病態について説明できる。 投球障害肩へのアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。											
4	【授業單元】 身体組成管理、再発予防、外傷予防のためのエクササイズ 【到達目標】 身体組成管理、再発予防、外傷予防のためのエクササイズの目的を理解する。各種エクササイズが実践できる。	12	【授業單元】 肘関節・手関節疾患へのアスレティックリハビリテーション 【到達目標】 肘関節・手関節疾患の病態について説明できる。 肘関節・手関節疾患へのアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。											
5	【授業單元】 物理療法概論・温熱療法・寒冷療法 【到達目標】 物理療法概論について理解する。 温熱療法・寒冷療法の分類、目的、禁忌について理解する。	13	【授業單元】 足関節捻挫へのアスレティックリハビリテーション 【到達目標】 足関節捻挫の病態について説明できる。 足関節捻挫へのアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。											
6	【授業單元】 電気刺激療法、超音波療法 【到達目標】 電気刺激療法、超音波療法の目的、禁忌について理解する。	14	【授業單元】 前半のまとめ① 【到達目標】 前半の振り返り											
7	【授業單元】 補装具、足底板 【到達目標】 補装具、足底板の目的について理解する。	15	【授業單元】 前半のまとめ② 【到達目標】 前半の振り返り											
8	【授業單元】 頸部疾患へのアスレティックリハビリテーション 【到達目標】 頸部疾患の病態について説明できる。 頸部疾患へのアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価（平素の学習状況・出席状況など）を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。 試験は筆記試験で行う。											
	【履修に当たっての心構え・留意点】 実技を交えて行うので、動きやすい服装で受講すること。													

授業概要

科目名	アスレティックリハビリテーションⅠ	必修選択の別	選択	開講区分	前期	担当教員	荒谷 幸次		
サブ科目名		学年	2年	授業形態	演習	総単位数	4 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
・運動療法、物理療法などのアスレティックリハビリテーションに必要な基礎知識を身につける。 ・スポーツ外傷・障害の病態や受傷機転を説明できる。 ・スポーツ外傷・障害の治癒過程に応じたアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。									
【学習内容】（実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する）									
医療機関での理学療法士としてリハビリテーション経験があり、国立スポーツ科学センターのケアスタッフ、日本パラスポーツ協会ナショナルチームのトレーナー活動経験がある教員が担当する。 運動器の機能解剖やスポーツ外傷・障害の知識を復習しながら、運動療法、物理療法などの基礎知識を学び、スポーツ外傷・障害別のアスレティックリハビリテーションについて、座学と実技を交えて行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
・公認アスレティックトレーナー専門科目教本 7 アスレティックリハビリテーション ・スポーツ外傷・障害の理学診断 理学療法ガイド（文光堂） ・適切な判断を導くための整形外科徒手検査法（メディカルビュー）					授業時間外の予習等について、必要な場合は、その都度授業で案内します。				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
16	【授業単元】膝内側側副靭帯損傷へのアスレティックリハビリテーション 【到達目標】膝内側側副靭帯損傷の病態について説明できる。 膝内側側副靭帯損傷へのアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。	24	【授業単元】症例検討3 【到達目標】提示された症例に対してアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。						
17	【授業単元】膝前十字靭帯損傷へのアスレティックリハビリテーション 【到達目標】膝前十字靭帯損傷の病態について説明できる。 膝前十字靭帯損傷へのアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。	25	【授業単元】症例検討4 【到達目標】提示された症例に対してアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。						
18	【授業単元】大腿屈筋群肉ばなれへのアスレティックリハビリテーション 【到達目標】大腿屈筋群肉ばなれの病態について説明できる。 大腿屈筋群肉ばなれへのアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。	26	【授業単元】症例検討5 【到達目標】提示された症例に対してアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。						
19	【授業単元】扁平足障害、シンスプリントへのアスレティックリハビリテーション 【到達目標】扁平足障害、シンスプリントの病態について説明できる。 扁平足障害、シンスプリントへのアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。	27	【授業単元】症例検討6 【到達目標】提示された症例に対してアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。						
20	【授業単元】驚足炎へのアスレティックリハビリテーション 【到達目標】驚足炎の病態について説明できる。 驚足炎へのアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。	28	【授業単元】症例検討7 【到達目標】提示された症例に対してアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。						
21	【授業単元】膝蓋大腿関節障害へのアスレティックリハビリテーション 【到達目標】膝蓋大腿関節障害の病態について説明できる。 膝蓋大腿関節障害のアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。	29	【授業単元】症例検討8 【到達目標】提示された症例に対してアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。						
22	【授業単元】症例検討1 【到達目標】提示された症例に対してアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。	30	【授業単元】テスト 【到達目標】テスト解説、後半の振り返り						
23	【授業単元】症例検討2 【到達目標】提示された症例に対してアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価（平素の学習状況・出席状況など）を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。 試験は筆記試験で行う。						
【履修に当たっての心構え・留意点】									
実技を交えて行うので、動きやすい服装で受講すること。									

授業概要

科目名	アスレティックトレーニング	必修選択の別	選択	開講区分	前期	担当教員	小泉 圭介										
サブ科目名		学年	2年	授業形態	演習	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間								
学科・専攻	アスレティックトレーナー養成科土日部																
【授業を通じての到達目標】																	
各種目の競技特性を踏まえたトレーニング処方を理解する 過活動筋群の抑制と低活動筋群の活性化について、評価とトレーニング方法を学び実技にて実践できるよう取り組む ケーススタディーにてプログラムを作成し、実際の指導方法をグループワークを通じて学ぶ																	
【学習内容】（実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する） 国立スポーツ科学センターりハビリテーション室勤務を経て、競泳日本代表やパラ水泳日本代表のトレーナーとしてオリンピック、パラリンピックでの経験をもち、現在は人材育成をおこなっている講師が担当する。 身体各部位の関節・筋・筋膜などの機能を再確認し、各種目別でのパフォーマンス改善や障害予防の上で望ましい機能について理解を深める。その上で、多関節筋の過活動を抑制し単関節筋の活性化を促すことで、身体全体としての望ましい共同活動を再獲得することを目的とするトレーニングについて、プログラム作成と指導方法まで学習する。																	
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】												
配布資料					バイオメカニクス領域の予習をすることが望ましい												
コマ	授業計画	コマ	授業計画														
1	【授業単元】 概論	9	【授業単元】 陸上競技のアストレ														
	【到達目標】 競技特性を踏まえたアストレを理解する 選手個人特性を踏まえたアストレを理解する		【到達目標】 競技特性を踏まえたトレーニングの理解 トレーニングプログラム作成の要点の理解														
2	【授業単元】 姿勢に対するアストレ	10	【授業単元】 水泳のアストレ														
	【到達目標】 不良姿勢に対するトレーニング処方 自ら模範を示せるよう技術習得する		【到達目標】 競技特性を踏まえたトレーニングの理解 トレーニングプログラム作成の要点の理解														
3	【授業単元】 動作に対するアストレ	11	【授業単元】 サッカーのアストレ														
	【到達目標】 各種目動作を再確認しそのトレーニングについて理解する グループにてトレーニング処方を検討する		【到達目標】 競技特性を踏まえたトレーニングの理解 トレーニングプログラム作成の要点の理解														
4	【授業単元】 走り動作のアスレティックトレーニング	12	【授業単元】 バスケットボールのアストレ														
	【到達目標】 動作指導とトレーニング指導の要点を理解する 自ら模範を示せるように技術習得する		【到達目標】 競技特性を踏まえたトレーニングの理解 トレーニングプログラム作成の要点の理解														
5	【授業単元】 ストップ・方向転換動作のアストレ	13	【授業単元】 ラグビーのアストレ														
	【到達目標】 動作指導とトレーニング指導の要点を理解する 自ら模範を示せるように技術習得する		【到達目標】 競技特性を踏まえたトレーニングの理解 トレーニングプログラム作成の要点の理解														
6	【授業単元】 投げ動作のアストレ	14	【授業単元】 スキー・スケートのアストレ														
	【到達目標】 動作指導とトレーニング指導の要点を理解する 自ら模範を示せるように技術習得する		【到達目標】 競技特性を踏まえたトレーニングの理解 トレーニングプログラム作成の要点の理解														
7	【授業単元】 あたり動作のアストレ	15	【授業単元】 定期試験														
	【到達目標】 動作指導とトレーニング指導の要点を理解する 自ら模範を示せるように技術習得する		【到達目標】 知識の定着度を確認する。														
8	【授業単元】 ジャンプ動作のアストレ		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価（平素の学習状況・出席状況など）を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。														
	【到達目標】 動作指導とトレーニング指導の要点を理解する 自ら模範を示せるように技術習得する		試験は筆記試験で行う。														
【履修に当たっての心構え・留意点】																	
特になし																	

授業概要

科目名	検査・測定と評価	必修 選択の別	選択	開講 区分	前期	担当 教員	荒谷 幸次							
サブ科目名														
学科・専攻	アスレティックトレーナー養成科土日部		学年 2年	授業 形態	演習	総単位数 6 単位	総時間数 90 時間							
【授業を通じての到達目標】														
<ul style="list-style-type: none"> ・アスレティックトレーナーに必要な検査・測定・評価を理解し、説明できる。 ・具体的に各種検査・測定が実践できる。 														
【学習内容】（実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する）														
医療機関での理学療法士としてリハビリテーション経験があり、国立スポーツ科学センターのケアスタッフ、日本パラスポーツ協会ナショナルチームのトレーナー活動経験がある教員が担当する。 運動器の機能解剖やスポーツ外傷・障害の知識を復習しながら、運動療法、物理療法などの基礎知識を学び、スポーツ外傷・障害別のアスレティックリハビリテーションについて、座学と実技を交えて行う。														
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】									
・公認アスレティックトレーナー専門科目教本7 アスレティックリハビリション ・スポーツ外傷・障害の理学診断 理学療法ガイド（文光堂） ・適切な判断を導くための整形外科徒手検査法（メディカルビュー）					授業時間外の予習等について、必要な場合は、その都度授業で案内する。									
コマ	授業計画			コマ	授業計画									
	【授業単元】 ガイダンス・アスレティックトレーナーに必要な評価				【授業単元】 徒手筋力検査（下肢）									
	【到達目標】 アスレティックトレーナーに必要な評価の目的、意義、役割を理解する。				【到達目標】 徒手筋力検査の目的・意義について理解する。 徒手筋力検査が実践できる。									
	【授業単元】 姿勢・身体アライメント評価				【授業単元】 筋力・筋パワー・筋持久力・全身持久力									
	【到達目標】 姿勢・身体アライメントのについて理解する。 姿勢・身体アライメントを観察し、評価できる。				【到達目標】 筋力・筋パワー・筋持久力・全身持久力について理解する。 各種測定方法について理解する。									
	【授業単元】 形態測定（四肢長）				【授業単元】 敏捷性・協調性									
	【到達目標】 形態測定の目的と意義を理解する。 四肢長が測定できる。				【到達目標】 敏捷性・協調性の検査測定の目的と意義を理解する。 各種検査測定法について実践できる。									
	【授業単元】 形態測定（周径）				【授業単元】 身体組成									
	【到達目標】 形態測定の目的と意義を理解する。 周径が測定できる。				【到達目標】 身体組成検査測定の目的と意義を理解する。 各種測定法について実践できる。									
	【授業単元】 関節可動域測定（上肢・体幹）				【授業単元】 一般的な体力測定									
8・9	【到達目標】 関節可動域測定の目的と意義を理解する。 関節可動域測定が実践できる。				【到達目標】 一般的な体力測定の目的と意義を理解する。 各種測定法について実践できる。									
	【授業単元】 関節可動域測定（下肢）				【授業単元】 スポーツ動作の観察と分析（歩行）									
10	【到達目標】 関節可動域測定の目的と意義を理解する。 関節可動域測定が実践できる。				【到達目標】 歩行のバイオメカニクスについて理解する。 歩行動作に影響する要因について理解する。									
	【授業単元】 関節弛緩性・筋タイトネス				【授業単元】 スポーツ動作の観察と分析（走動作）									
11・12	【到達目標】 関節弛緩性・筋タイトネスについて理解する。 関節弛緩性検査・筋タイトネス検査が実践できる。				【到達目標】 走動作のバイオメカニクスについて理解する。 外傷の発生機転となる走動作の特徴とメカニズムを理解する。									
	【授業単元】 徒手筋力検査（上肢）				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価（平素の学習状況・出席状況など）を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。 試験は筆記試験で行う。									
【履修に当たっての心構え・留意点】														
実技を交えて行うので、動きやすい服装で受講すること。														

授業概要

科目名	検査・測定と評価	必修 選択の別	選択	開講 区分	前期	担当 教員	荒谷 幸次									
サブ科目名		学年	2年	授業 形態	演習	総単位数	6 単位	総時間数	90 時間							
学科・専攻	アスレティックトレーナー養成科土日部						6 単位									
【授業を通じての到達目標】																
<ul style="list-style-type: none"> ・アスレティックトレーナーに必要な検査・測定・評価を理解し、説明できる。 ・具体的に各種検査・測定が実践できる。 																
【学習内容】（実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する）																
<p>医療機関での理学療法士としてリハビリテーション経験があり、国立スポーツ科学センターのケアスタッフ、日本パラスポーツ協会ナショナルチームのトレーナー活動経験がある教員が担当する。</p> <p>運動器の機能解剖やスポーツ外傷・障害の知識を復習しながら、運動療法、物理療法などの基礎知識を学び、スポーツ外傷・障害別のアスレティックリハビリテーションについて、座学と実技を交えて行う。</p>																
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】											
<ul style="list-style-type: none"> ・公認アスレティックトレーナー専門科目教本 7 アスレティックリハビリション ・スポーツ外傷・障害の理学診断 理学療法ガイド（文光堂） ・適切な判断を導くための整形外科徒手検査法（メディカルビュー） 					授業時間外の予習等について、必要な場合は、その都度授業で案内する。											
コマ	授業計画	コマ	授業計画													
22・23	【授業単元】 スポーツ動作の観察と分析（ストップ・方向転換動作）	【到達目標】 ストップ・方向転換動作のバイオメカニクスについて理解する。外傷の発生機転となるストップ・方向転換動作の特徴とメカニズムを理解する。	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】							
	【授業単元】 スポーツ動作の観察と分析（跳動作）															
24・25	【授業単元】 スポーツ動作の観察と分析（投動作）	【到達目標】 跳動作のバイオメカニクスについて理解する。 外傷の発生機転となる跳動作の特徴とメカニズムを理解する。	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】							
26・27	【授業単元】 スポーツ動作の観察と分析（投動作）	【到達目標】 投動作のバイオメカニクスについて理解する。 外傷の発生機転となる投動作の特徴とメカニズムを理解する。	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】							
28	【授業単元】 スポーツ動作の観察と分析（あたり動作）	【到達目標】 あたり動作のバイオメカニクスについて理解する。 外傷の発生機転となるあたり動作の特徴とメカニズムを理解する。	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】							
29・30	【授業単元】 special test（上肢）	【到達目標】 上肢のspecial testの目的と意義について理解する。 上肢のspecial testが実践できる。	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】							
31・32	【授業単元】 special test（下肢）	【到達目標】 下肢のspecial testの目的と意義について理解する。 下肢のspecial testが実践できる。	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】							
33～44	【授業単元】 症例検討 1	【到達目標】 提示された症例に対してアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実践できる。	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】							
45	【授業単元】 テスト	【到達目標】 テスト解説、後半の振り返り	【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価（平素の学習状況・出席状況など）を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。 試験は筆記試験で行う。	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】	【授業単元】 【到達目標】							
【履修に当たっての心構え・留意点】					実技を交えて行うので、動きやすい服装で受講すること。											

授業概要

科目名	アスレティックリハビリテーションⅡ	必修選択の別	選択	開講区分	後期	担当教員	小泉 圭介							
サブ科目名		学年	2年	授業形態	演習	総単位数	4 単位	総時間数	60 時間					
学科・専攻	アスレティックトレーナー養成科土日部													
【授業を通じての到達目標】														
各種目の競技特性と障害発生機序の関係性を理解する。 動作別にスポーツ傷害のメカニズムとリハビリテーションを理解する。 基本的コンディショニング技術・リハビリテーション技術を習得する。														
【学習内容】（実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する）														
国立スポーツ科学センターや、ナショナルチームで活動経験がある教員が授業を担当する。、スポーツ種目とそれに特有な動作について理解し、スポーツごとに発生しやすい障害(急性、慢性)の発症機序と病態を学ぶ。さらに、特に慢性外傷に対するリハビリテーション技術、競技復帰後の再発予防のためのコンディショニングについて学習する。授業は前半が講義中心、後半が実技中心となる。またケーススタディーとしてグループワークも取り入れ進行する。														
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】									
公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑦					予めテキストを読み予習すること。 授業後はグループにて実技の復習をすることが望ましい。									
コマ	授業計画	コマ	授業計画											
1	【授業単元】 概論 【到達目標】 競技特性を踏まえたアスリハを理解する。 選手個人特性を踏まえたアスリハを理解する。	9	【授業単元】 陸上競技のアスレティックリハビリテーション 【到達目標】 競技特性を踏まえた外傷障害の発生機序を理解する 復帰のための到達目標を理解する リハプログラム作成の要点を理解する											
2	【授業単元】 姿勢評価 【到達目標】 姿勢評価とそのバイオメカニクスを理解する グループで姿勢評価を行えるようになる	10	【授業単元】 水泳のアスレティックリハビリテーション 【到達目標】 競技特性を踏まえた外傷障害の発生機序を理解する 復帰のための到達目標を理解する リハプログラム作成の要点を理解する											
3	【授業単元】 動作分析 【到達目標】 各動作分析の復習 グループで動作分析を行えるようになる	11	【授業単元】 サッカーのアスレティックリハビリテーション 【到達目標】 競技特性を踏まえた外傷障害の発生機序を理解する 復帰のための到達目標を理解する リハプログラム作成の要点を理解する											
4	【授業単元】 走り動作 【到達目標】 動作指導の要点を理解する 自ら模範を示せるよう技術習得する	12	【授業単元】 バスケットボールのアスレティックリハビリテーション 【到達目標】 競技特性を踏まえた外傷障害の発生機序を理解する 復帰のための到達目標を理解する リハプログラム作成の要点を理解する											
5	【授業単元】 ストップ・方向転換動作 【到達目標】 動作指導の要点を理解する 自ら模範を示せるよう技術習得する	13	【授業単元】 ラグビーのアスレティックリハビリテーション 【到達目標】 競技特性を踏まえた外傷障害の発生機序を理解する 復帰のための到達目標を理解する リハプログラム作成の要点を理解する											
6	【授業単元】 投げ動作 【到達目標】 動作指導の要点を理解する 自ら模範を示せるよう技術習得する	14	【授業単元】 スキー・スケートのアスレティックリハビリテーション 【到達目標】 競技特性を踏まえた外傷障害の発生機序を理解する 復帰のための到達目標を理解する リハプログラム作成の要点を理解する											
7	【授業単元】 あたり動作 【到達目標】 動作指導の要点を理解する 自ら模範を示せるよう技術習得する	15	【授業単元】 パレーボールのアスレティックリハビリテーション 【到達目標】 競技特性を踏まえた外傷障害の発生機序を理解する 復帰のための到達目標を理解する リハプログラム作成の要点を理解する											
8	【授業単元】 ジャンプ動作 【到達目標】 動作指導の要点を理解する 自ら模範を示せるよう技術習得する		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。 試験は筆記試験で行う。											
【履修に当たっての心構え・留意点】														
実技を交えて行うので、動きやすい服装で受講すること。														

授業概要

科目名	アスレティックリハビリテーションⅡ	必修 選択の別	選択	開講 区分	後期	担当 教員	小泉 圭介							
サブ科目名		学年	2年	授業 形態	演習	総単位数	4 単位	総時間数	60 時間					
学科・専攻	アスレティックトレーナー養成科土日部													
【授業を通じての到達目標】														
各種目の競技特性と障害発生機序の関係性を理解する。 動作別にスポーツ傷害のメカニズムとリハビリテーションを理解する。 基本的コンディショニング技術・リハビリテーション技術を習得する。														
【学習内容】（実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する）														
国立スポーツ科学センターや、ナショナルチームで活動経験がある教員が授業を担当する。、スポーツ種目とそれに特有な動作について理解し、スポーツごとに発生しやすい障害(急性、慢性)の発症機序と病態を学ぶ。さらに、特に慢性外傷に対するリハビリテーション技術、競技復帰後の再発予防のためのコンディショニングについて学習する。授業は前半が講義中心、後半が実技中心となる。またケーススタディーとしてグループワークも取り入れ進行する。														
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】									
公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑦					予めテキストを読み予習すること。 授業後はグループにて実技の復習をすることが望ましい。									
コマ	授業計画	コマ	授業計画											
16	【授業単元】 ハンドボールのアスレティックリハビリテーション 【到達目標】 競技特性を踏まえた外傷障害の発生機序を理解する 復帰のための到達目標を理解する リハプログラム作成の要点を理解する	24	【授業単元】 ケーススタディ：野球 【到達目標】 競技特性を踏まえたりハプログラムを作成する 復帰のための到達目標を設定する リハプログラムの適切な指導を実践する											
17	【授業単元】 格闘技のアスレティックリハビリテーション 【到達目標】 競技特性を踏まえた外傷障害の発生機序を理解する 復帰のための到達目標を理解する リハプログラム作成の要点を理解する	25	【授業単元】 ケーススタディ：ラグビー 【到達目標】 競技特性を踏まえたりハプログラムを作成する 復帰のための到達目標を設定する リハプログラムの適切な指導を実践する											
18	【授業単元】 体操競技のアスレティックリハビリテーション 【到達目標】 競技特性を踏まえた外傷障害の発生機序を理解する 復帰のための到達目標を理解する リハプログラム作成の要点を理解する	26	【授業単元】 ケーススタディ：ハンドボール・バレー・ボル 【到達目標】 競技特性を踏まえたりハプログラムを作成する 復帰のための到達目標を設定する リハプログラムの適切な指導を実践する											
19	【授業単元】 スキー・スケートのアスレティックリハビリテーション 【到達目標】 競技特性を踏まえた外傷障害の発生機序を理解する 復帰のための到達目標を理解する リハプログラム作成の要点を理解する	27	【授業単元】 ケーススタディ：格闘技 【到達目標】 競技特性を踏まえたりハプログラムを作成する 復帰のための到達目標を設定する リハプログラムの適切な指導を実践する											
20	【授業単元】 ケーススタディ：陸上 【到達目標】 競技特性を踏まえたりハプログラムを作成する 復帰のための到達目標を設定する リハプログラムの適切な指導を実践する	28	【授業単元】 ケーススタディ：スキー・スケート 【到達目標】 競技特性を踏まえたりハプログラムを作成する 復帰のための到達目標を設定する リハプログラムの適切な指導を実践する											
21	【授業単元】 ケーススタディ：水泳 【到達目標】 競技特性を踏まえたりハプログラムを作成する 復帰のための到達目標を設定する リハプログラムの適切な指導を実践する	29	【授業単元】 総復習 【到達目標】 今までの授業内容を総復習し、理解を深める。											
22	【授業単元】 ケーススタディ：サッカー 【到達目標】 競技特性を踏まえたりハプログラムを作成する 復帰のための到達目標を設定する リハプログラムの適切な指導を実践する	30	【授業単元】 定期試験 【到達目標】 知識と技術の定着度を確認する											
23	【授業単元】 ケーススタディ：バスケットボール 【到達目標】 競技特性を踏まえたりハプログラムを作成する 復帰のための到達目標を設定する リハプログラムの適切な指導を実践する		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価（平素の学習状況・出席状況など）を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。 試験は筆記試験で行う。											
【履修に当たっての心構え・留意点】														
実技を交えて行うので、動きやすい服装で受講すること。														

授業概要

科目名	アスレティックトレーナー資格対策	必修選択の別	選択	開講区分	後期	担当教員	尾垣 孝博									
サブ科目名		学年	2年	授業形態	演習	総単位数	16 単位	総時間数	240 時間							
学科・専攻	アスレティックトレーナー養成科土日部															
【授業を通じての到達目標】																
<ul style="list-style-type: none"> ・アスレティックトレーナー試験に合格する ・アスレティックトレーナーとして現場で即戦力となるような知識や技術を身に付けると共に、スポーツ現場に必要とされる人間性を身に付ける 																
【学習内容】（実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する）																
プロチームや代表チームでアスレティックトレーナーとして活動した経験のある教員が、アスレティックトレーナー理論試験や総合実技試験の内容を踏まえながら、学生に主体的かつ対話的な学びを促すような授業を実施する。																
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】											
アスレティックトレーナー専門科目教本、その他参考文献					1年次の授業内容の復習と毎週の授業後の復習をすること AT実習での経験を言語化し、指導としてアウトプットできるようにする											
コマ	授業計画	コマ	授業計画													
1	【授業単元】 オリエンテーション 【到達目標】 ・授業の目的や方法、狙いを理解できる ・AT理論試験の合格に向けてモチベーションを高めることができる	33~36	【授業単元】 基礎科目の解説 【到達目標】 ・過去問を題材にしながら、知識を正確にアウトプットできる ・相手の立場に立って意見を伝え、謙虚に受け入れられる人間性が身に付く													
2~4	【授業単元】 運動器の解剖と機能について 【到達目標】 ・過去問を題材にしながら、知識を正確にアウトプットできる ・相手の立場に立って意見を伝え、謙虚に受け入れられる人間性が身に付く	37~40	【授業単元】 アスレティックトレーナーの役割について 【到達目標】 ・過去問を題材にしながら、知識を正確にアウトプットできる ・相手の立場に立って意見を伝え、謙虚に受け入れられる人間性が身に付く													
5~12	【授業単元】 スポーツ外傷・障害の基礎知識について 【到達目標】 ・過去問を題材にしながら、知識を正確にアウトプットできる ・相手の立場に立って意見を伝え、謙虚に受け入れられる人間性が身に付く	41~44	【授業単元】 救急処置について 【到達目標】 ・過去問を題材にしながら、知識を正確にアウトプットできる ・相手の立場に立って意見を伝え、謙虚に受け入れられる人間性が身に付く													
13~16	【授業単元】 運動生理学について 【到達目標】 ・過去問を題材にしながら、知識を正確にアウトプットできる ・相手の立場に立って意見を伝え、謙虚に受け入れられる人間性が身に付く	45~48	【授業単元】 予防とコンディショニングについて 【到達目標】 ・過去問を題材にしながら、知識を正確にアウトプットできる ・相手の立場に立って意見を伝え、謙虚に受け入れられる人間性が身に付く													
17~20	【授業単元】 トレーニング科学（バイオメカニクス）について 【到達目標】 ・過去問を題材にしながら、知識を正確にアウトプットできる ・相手の立場に立って意見を伝え、謙虚に受け入れられる人間性が身に付く	49~52	【授業単元】 検査・測定と評価について 【到達目標】 ・過去問を題材にしながら、知識を正確にアウトプットできる ・相手の立場に立って意見を伝え、謙虚に受け入れられる人間性が身に付く													
21~24	【授業単元】 健康管理とスポーツ医学について 【到達目標】 ・過去問を題材にしながら、知識を正確にアウトプットできる ・相手の立場に立って意見を伝え、謙虚に受け入れられる人間性が身に付く	53~56	【授業単元】 昼間試験（AT理論試験基礎科目） 【到達目標】 ・60問中70%以上の正答率													
25~28	【授業単元】 スポーツと栄養について 【到達目標】 ・過去問を題材にしながら、知識を正確にアウトプットできる ・相手の立場に立って意見を伝え、謙虚に受け入れられる人間性が身に付く	57~60	【授業単元】 昼間試験、理論試験全範囲の振り返り 【到達目標】 ・AT理論試験基礎科目について理解できる													
29~32	【授業単元】 基礎科目総まとめ 【到達目標】 ・過去問を題材にしながら、知識を正確にアウトプットできる ・相手の立場に立って意見を伝え、謙虚に受け入れられる人間性が身に付く		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価（平素の学習状況・出席状況など）を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。 試験は筆記試験で行う。													
【履修に当たっての心構え・留意点】																
特になし																

授業概要

科目名	アスレティックトレーナー資格対策	必修選択の別	選択	開講区分	後期	担当教員	尾垣 孝博		
サブ科目名		学年	2年	授業形態	演習	総単位数	16 単位	総時間数	240 時間
学科・専攻	アスレティックトレーナー養成科土日部								
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・アスレティックトレーナー試験に合格する ・アスレティックトレーナーとして現場で即戦力となるような知識や技術を身に付けると共に、スポーツ現場に必要とされる人間性を身に付ける 									
【学習内容】（実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する）									
プロチームや代表チームでアスレティックトレーナーとして活動した経験のある教員が、アスレティックトレーナー理論試験や総合実技試験の内容を踏まえながら、学生に主体的かつ対話的な学びを促すような授業を実施する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
アスレティックトレーナー専門科目教本、その他参考文献					1年次の授業内容の復習と毎週の授業後の復習をすること AT実習での経験を言語化し、指導としてアウトプットできるようにする				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
61~64	【授業単元】 アスレティックリハビリテーションについて 【到達目標】 ・過去問を題材にしながら、知識を正確にアウトプットできる ・相手の立場に立って意見を伝え、謙虚に受け入れられる人間性が身に付く	93~96	【授業単元】 アジャリティトレーニングについて 【到達目標】 ・過去問を題材にしながら、知識を正確にアウトプットできる ・相手の立場に立って意見を伝え、謙虚に受け入れられる人間性が身に付く						
65~68	【授業単元】 予防とコンディショニングについて 【到達目標】 ・過去問を題材にしながら、知識を正確にアウトプットできる ・相手の立場に立って意見を伝え、謙虚に受け入れられる人間性が身に付く	97~100	【授業単元】 ジャンプトレーニングについて 【到達目標】 ・過去問を題材にしながら、知識を正確にアウトプットできる ・相手の立場に立って意見を伝え、謙虚に受け入れられる人間性が身に付く						
69~72	【授業単元】 検査測定と評価について 【到達目標】 ・過去問を題材にしながら、知識を正確にアウトプットできる ・相手の立場に立って意見を伝え、謙虚に受け入れられる人間性が身に付く	101~104	【授業単元】 あたり動作獲得について 【到達目標】 ・過去問を題材にしながら、知識を正確にアウトプットできる ・相手の立場に立って意見を伝え、謙虚に受け入れられる人間性が身に付く						
73~76	【授業単元】 AT理論試験応用科目について 【到達目標】 ・過去問を題材にしながら、知識を正確にアウトプットできる ・相手の立場に立って意見を伝え、謙虚に受け入れられる人間性が身に付く	105~108	【授業単元】 全力投球動作獲得について 【到達目標】 ・過去問を題材にしながら、知識を正確にアウトプットできる ・相手の立場に立って意見を伝え、謙虚に受け入れられる人間性が身に付く						
77~80	【授業単元】 AT理論試験応用科目について 【到達目標】 ・過去問を題材にしながら、知識を正確にアウトプットできる ・相手の立場に立って意見を伝え、謙虚に受け入れられる人間性が身に付く	109~112	【授業単元】 総合実技試験に向けた練習 【到達目標】 ・過去問を題材にしながら、知識を正確にアウトプットできる ・相手の立場に立って意見を伝え、謙虚に受け入れられる人間性が身に付く						
81~84	【授業単元】 AT理論試験に向けた自習 【到達目標】 ・AT理論試験に合格できるという自信を身に付ける。	113~116	【授業単元】 期末試験（AT実技試験） 【到達目標】 ・全員B評価以上						
85~88	【授業単元】 AT理論試験に向けた自習or自己採点・解答解説作成 【到達目標】 ・AT理論試験に合格できるという自信を身に付ける。	117~120	【授業単元】 期末試験の振り返り 【到達目標】 ・卒業後のトレーナー活動やそれぞれの仕事に対してプロフェッショナルとしての自覚が身に付く						
89~92	【授業単元】 全力疾走について 【到達目標】 ・過去問を題材にしながら、知識を正確にアウトプットできる ・相手の立場に立って意見を伝え、謙虚に受け入れられる人間性が身に付く		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価（平素の学習状況・出席状況など）を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 D以上で合格として単位認定する。 70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しEとする。 試験は筆記試験で行う。						
【履修に当たっての心構え・留意点】									
特になし									

授業概要

科目名	スポーツコラボ実習	必修選択の別	選択	開講区分	集中	担当教員	尾垣 孝博		
サブ科目名		学年	2年	授業形態	演習	総単位数	8 単位	総時間数	240 時間
学科・専攻	アスレティックトレーナー養成科土日部								

【授業を通じての到達目標】

スポーツ現場でのアスレティックトレーナーの経験がある担当教員が、本実習ではアスレティックトレーナーとして活動する際に必要な選手に対する姿勢、技術をスポーツ現場およびアスレティックトレーニングルームにおいて実際の活動を通して学び、習得する。

【学習内容】（実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する）

アスレティックトレーナーとして最低限必要なスポーツ現場における安全管理、救急処置、評価、各種エクササイズの実践および指導ができる。

【使用教科書・教材・参考図書】	【授業時間外における学習】
アスレティックトレーナー専門科目教本、その他参考文献	1年次の授業内容の復習と毎週の授業後の復習をすること AT実習での経験を言語化し、指導としてアウトプットできるようにする
コマ 授業計画	コマ 授業計画

【実習概要】

これまで各科目ごとに系統的に学んできた知識・技術を総動員し、スポーツ現場およびトレーナールームという臨床場面において、プロのアスレティックトレーナーの指導を受けながら、アスレティックトレーナー業務を実践する。
スポーツ現場とアスレティックトレーニングルーム、両方の活動が必須となる実習である。

- ①見学実習
- ②検査・測定と評価
- ③スポーツ現場実習
- ④アスリハ実習
- ⑤総合実習

上記の5項目に対して240時間の実習を行う。

		【成績評価の方法と基準】	
		所定時間の実習終了をもって単位認定とする。 実習評価は実習前教育、実習施設の評価、実習後教育の3要素で評価する。 評価基準（A～F）は「科目評価の基準」を準用する。	
【履修に当たっての心構え・留意点】			
特になし			